

授業科目名	開発協力論	単位数	2単位
担当教員名	三村 悟	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
「学位授与の方針」との関係 DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> グローバル化に伴い複雑さを増す国際関係や、国境を越える地球全体の問題（地球規模課題）に関する知識をベースとして、国際協力（開発協力）の重要性について理解するとともに、政府開発援助（ODA）や国際機関による活動だけでなく、近年大きな役割を果たすようになっている NGOや民間企業など、多様な主体による協力活動について理解を深める。あわせて貧困や感染症、気候変動など、世界が直面する地球規模課題への対応について学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 世界195か国のうち、150以上が開発途上国と呼ばれる国々である。開発途上国の多くは、貧困を根本的な原因とする保健衛生や教育、環境や災害への脆弱性などの問題を抱えている。国際社会全体の平和と安定、発展のために、開発途上国・地域の人々を支援することが開発協力である。本講義では、環境や防災分野などの具体的な国際協力の事例も紹介しながら、開発協力の成果や課題について学ぶ。			
<b>授業計画</b> 第1回：なぜ国際協力（開発協力）が必要なのか 第2回：開発協力の基本的な仕組み 第3回：開発協力に対する考え方と方法の変化（1） 第4回：開発協力に対する考え方と方法の変化（2） 第5回：国境を越える開発問題 第6回：貧困削減への取り組み 第7回：貧困削減のための良い統治 第8回：平和構築と復興支援 第9回：気候変動と自然災害への対応 第10回：持続可能な開発目標（SDGs） 第11回：グローバル・ガバナンス 第12回：ジェンダーと多様性 第13回：民間企業による開発への取り組み 第14回：NGO、市民社会による取り組み 第15回：社会包摂と地球規模の取り組み 定期試験			
スクーリングでの学修			
<b>テキスト</b> 下村恭民、辻一人、稲田十一、深川由起子（2016）『国際協力 その新しい潮流 第3版』有斐閣選書 978-4641281387			
<b>参考書・参考資料等</b> （1）デビッド・ヒューム（2017）『貧しい人を助ける理由 遠くの子とあなたのつながり』日本評論社 978-4535558892 （2）紀谷正彦・山形辰史（2019）『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』日本評論社 978-4535559455			
<b>学生に対する評価</b> レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）			